

【土木・建築基礎工事と機材の専門誌】

基礎工

2011
Vol.39, No.5

THE FOUNDATION ENGINEERING &
EQUIPMENT, Monthly

5

特集 ▶ 健全性診断と長寿命化



信頼性の高い支持力を発揮する
HYSC (ハイエスシー) 杭工法



JFE スチール 株式会社

第1回シンポジウム

「建設産業における弾性波診断技術は

今後どのような発展が望ましいのか、非破壊検査技術の実態と研究」

— 一般社団法人 弾性波診断技術協会

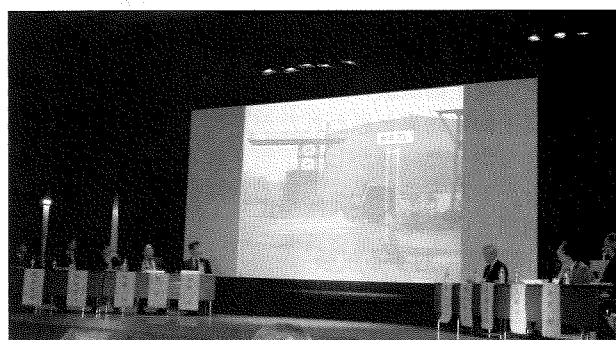
建設産業において鋼製防護柵根入れ長の検証実態及び非破壊検査技術を用いた研究開発の現状と将来像を新しい視点として捉え、そのあるべき方向性を示すために、建設産業に関わる人達のためにシンポジウムが開催された。

その主な内容は以下のとおりである。

第一部：検証の実態報告並びに研究報告として、

- ① (株)千代田コンサルタント 橋本 隆雄氏より
「土中構造物の被災実態と非破壊検査技術の現状と課題」として、アンカー工，地山補強土工，杭の被害とその診断技術が紹介された。
- ② (株)藤井基礎設計事務所 藤井 俊逸氏による
「EITACが行った全国規模の診断技術の実態報告とその検証」ガードレール車両衝突実験（動画による映像で迫力ある実車両を使用している実験を紹介）
- ③ 千葉工業大学 陶 良氏
「地中埋設物の映像化探査」
- ④ オリnpas(株) 稲場 英世氏
「医療用から工業用へ向けた最新の超音波技術の紹介」などが報告された。

第二部は基調講演として齋藤 宏保中部大学教授（元NHK解説主幹）により「地中で何が起きているのか。地下の利用はどこまで許されるのか」と題して行われた。



パネルディスカッションの様子

第三部はパネルディスカッションとして鋼製防護柵（ガードレール・ガードパイプ）の劣化診断について、ロックボルトなど補強材の劣化診断について、グラウンドアンカーなどアンカー材の劣化診断について、EITACの将来像などについて各協会の技術担当者から地震による被害例や検証技術と対策工および今後の課題等が発表された。その後、活発な議論が行われた。

〈事務局〉

一般社団法人 弾性波診断技術協会

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町18-16

TEL：03-6661-2131 FAX：03-6661-2171

URL：http://www.eitac.jp

東北太平洋沖地震の被災者の皆様に

お見舞い申し上げます。

東北太平洋沖地震により亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興を祈念いたします。

今回の地震の影響により、配送が遅れる場合があります。購読者の皆様には、ご迷惑をおかけ致しませぬことをおわび申し上げます。

株式会社総合土木研究所